

## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ①					授業の種類	実習	講師名			
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。											
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。											
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコールに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令システムの重要性も理解する。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げれる救急救命士を目指す。											
回数	講義内容								準備物(教材)		
1	資器材の取り扱い隊長(バック内の資器材の取り扱い・目的・適応を学習)								隊長バック 各種資器材		
2	AEDを用いたBLS：AEDを使用した市民講習向け内容を3人1組で実施。								シュミレーター		
3	救急隊の実施するBVMを使用した心肺蘇生を実施：3人2組でシュミレーターによりBVMを用いたCPRを実施								シュミレーター AED		
4	応急手当（三角巾法：畳み方・頭部・上肢・下肢・吊り・固定）								三角巾		
5	ストレッチャー基本動作：ストレッチャーの基本的取扱要領を実施。								ストレッチャー		
6	異物除去（ハイムリック法・背部叩打法・マギール鉗子）								各種トレーナー		
7	搬送法（徒手搬送＝一人法・二人法・三人法）ターポリン担架・ストレッチャー搬送								ターポリン担架 ストレッチャー		
8	バイタルサイン測定（呼吸、脈拍、血圧、体温）								血圧計、聴診器		
9	バイタルサイン測定(意識レベル評価) 個別								血圧計、聴診器 ペンライト		
10	バイタルサイン測定(意識レベル評価、血圧測定：上肢・下肢)								血圧計、聴診器 ペンライト		
11	バイタルサイン測定(意識・気道・呼吸・循環・体温) 隊活動								血圧計、聴診器 ペンライト		
12	バイタルサイン測定(意識・気道・呼吸・循環・体温) 隊活動復習								血圧計、聴診器 ペンライト		
13	隊活動：一次救命処置（状況評価・初期評価・CPR：胸骨圧迫手技練習）2隊並行								セーブマン・SimMan AEDトレーナー		
14	隊活動：CPA傷病者における状況評価・初期評価（酸素投与）からのCPR&AEDを使用した隊活動								セーブマン・SimMan AEDトレーナー		
15	隊活動：CPA傷病者における状況評価・初期評価（酸素投与）からのCPR&AEDを使用した隊活動								セーブマン・SimMan AEDトレーナー		
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル											
【準備学習・時間外学習】											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】											
OSCE試験（履修規定に準じる）											

## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ②					授業の種類	実習	講師名			
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。											
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。											
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコールに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令系統の重要性も理解する。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げれる救急救命士を目指す。											
回数	講義内容								準備物(教材)		
16	隊活動：CPA傷病者における状況評価・初期評価（酸素投与）からのCPR&AEDを使用した隊活動								セーブマン AEDトレレー		
17	窒息傷病者における状況評価・初期評価（酸素投与）からのCPR&AEDを使用した隊活動								セーブマン AEDトレレー		
18	窒息傷病者における状況評価・初期評価（酸素投与）からのCPR&AEDを使用した隊活動								セーブマン AEDトレレー		
19	患者観察プロトコール（状況評価・初期評価）、ABCの異常所見の観察と処置の流れ								セーブマン AEDトレレー		
20	患者観察プロトコール（状況評価・初期評価）、ABCの異常所見の観察と処置の流れ								セーブマン AEDトレレー		
21	患者観察プロトコール（状況評価・初期評価）、ABCの異常所見の観察と処置の流れ								セーブマン AEDトレレー		
22	ABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価								セーブマン AEDトレレー		
23	ABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価								セーブマン AEDトレレー		
24	ABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価								セーブマン AEDトレレー		
25	半自動除細動器を用いてABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価と各心停止波形の処置を実施								セーブマン TEC2603		
26	半自動除細動器を用いてABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価と各心停止波形の処置を実施								セーブマン TEC2603		
27	半自動除細動器を用いてABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価と各心停止波形の処置を実施								セーブマン TEC2603		
28	半自動除細動器を用いてABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価と各心停止波形の処置を実施								セーブマン TEC2603		
29	半自動除細動器を用いてABCの異常所見の観察と処置及び処置後の再評価と各心停止波形の処置を実施								セーブマン TEC2603		
30	CPR確認試験のための胸骨圧迫とBVM換気の事前練習								セーブマン		
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル											
【準備学習・時間外学習】											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】											
OSCE試験（履修規定に準じる）											



## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ④					授業の種類	実習	講師名				
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。												
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。												
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコールに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令システムの重要性も理解する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたれることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げられる救急救命士を目指す。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
46	隊活動：状況評価・初期評価（A・B・Cの異常）容態変化及び波形変化の確認・傷病者搬送（車内収容）《現場到着～現場活動、現場離脱から車内収容》										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
47	資器材による観察（聴診器・血圧計・体温計・血糖測定器）										血圧計、聴診器	
48	資器材による観察（聴診器・血圧計・体温計・血糖測定器）										血圧計、聴診器	
49	救急救命士が行う処置 （気道確保・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・電気ショック）										セーブマン・TEC2603・AED 隊長バック・酸素吸入器 吸引機・気道管理トレーナー	
50	救急救命士が行う処置 （気道確保・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・電気ショック）										セーブマン・TEC2603・AED 隊長バック・酸素吸入器 吸引機・気道管理トレーナー	
51	傷病者搬送										布担架、レスキューシート、 ストレッチャー	
52	傷病者搬送										布担架、レスキューシート、 ストレッチャー	
53	隊活動訓練（窒息、胸痛＜不整脈＞）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
54	隊活動訓練（頭痛、熱中症）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
55	隊活動訓練（胸痛・頭痛）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
56	隊活動訓練（胸痛・頭痛）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
57	隊活動訓練（胸痛・頭痛）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
58	隊活動訓練（胸痛・熱中症・窒息）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
59	特定行為（ラリングアルチューブ挿入方法）										セーブマン・ 気道管理トレーナー 隊長バック	
60	隊活動：状況評価・初期評価（A・B・Cの異常）容態変化及び波形変化の確認・特定行為（LT）										セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機	
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
OSCE試験（履修規定に準じる）												

## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ⑤					授業の種類	実習	講師名				
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。												
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。												
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコルに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令系統の重要性も理解する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げられる救急救命士を目指す。												
回数	講義内容									準備物(教材)		
61	LT手技練習（清潔操作、補助員との連携）&CPAにおけるLTを用いた隊活動									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機・気道管理トレーナー		
62	LT手技練習&CPAにおけるLTを用いた隊活動									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機・気道管理トレーナー		
63	救急救命士が行う処置 （気道確保・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・電気ショック）									セーブマン・TEC2603・ 隊長バック		
64	救急救命士が行う処置 （気道確保・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・電気ショック）									セーブマン・TEC2603・ 隊長バック		
65	LTおよびBVM換気手技練習&CPAにおけるLTを用いた隊活動練習									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機・気道管理トレーナー		
66	CPAにおけるLTを用いた隊活動（IC、SAMPLEの情報収集、状況評価、初期評価）									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
67	CPAにおけるLTを用いた隊活動（IC、SAMPLEの情報収集、状況評価、初期評価）									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
68	CPAにおけるLTを用いた隊活動（IC、SAMPLEの情報収集、状況評価、初期評価）									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
69	CPAにおけるLTを用いた隊活動（IC、SAMPLEの情報収集、状況評価、初期評価）									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
70	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
71	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
72	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
73	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
74	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
75	CPAにおけるLTを用いた隊活動～病院搬送まで～ 現場到着から病院到着までの流れ(セカンドコール、医師へ引継ぎ)									セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
OSCE試験（履修規定に準じる）												



## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ⑦					授業の種類	実習	講師名				
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。												
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。												
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコルに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令系統の重要性も理解する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げられる救急救命士を目指す。												
回数	講義内容								準備物(教材)			
91	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
92	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TTEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
93	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
94	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
95	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
96	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
97	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
98	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
99	CPA症例に基づいた隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
100	CPA症例における隊活動 ハイパフォーマンスCPR 講義								PC&プロジェクター			
101	CPA症例における隊活動（効果的なCPRの実践＝ハイパフォーマンスCPR）								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
102	CPA症例における隊活動（効果的なCPRの実践＝ハイパフォーマンスCPR）								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
103	CPA症例における隊活動（効果的なCPRの実践＝ハイパフォーマンスCPR）								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
104	CPA症例における隊活動（効果的なCPRの実践＝ハイパフォーマンスCPR）								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
105	CPA症例における隊活動（効果的なCPRの実践＝ハイパフォーマンスCPR）								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機			
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル												
【準備学習・時間外学習】												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
OSCE試験（履修規定に準じる）												





## 授業概要

科目名	シミュレーション実習Ⅰ⑨					授業の種類	実習	講師名			
授業回数	135	回	時間数	270	時間	6 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1	通年
【授業の目的・ねらい】 救急救命士が現場において必要とされる観察や手技、判断およびそれぞれの処置に対してその必要性を理解して実施できることを目的とする。また傷病者や関係者、医師や看護師等とのコミュニケーション技能も本実習にて学ぶこととする。											
【実務経験者】 ・消防機関に約39年間救急隊として従事し、その後3年間は医療機関にて急患部及びドクターカーの運用などに携わる。 ・病院の救急センターなどで、看護業務に携わる。											
【授業全体の内容の概要】 基本手技を身に付けたうえで、消防におけるプロトコールに基づいた救急隊の活動をメインにシミュレーションを実施する。また同時に隊長を中心とした指揮命令系統の重要性も理解する。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 学生自身が根拠を持って処置にあたることを到達目標とする。傷病者の状態に合わせた、観察・判断・処置・評価を繰り返し行いながら医療機関へ繋げれる救急救命士を目指す。											
回数	講義内容								準備物(教材)		
121	特定行為（静脈路確保）導入講義								PC&プロジェクター		
122	特定行為（静脈路確保）基本手技；穿刺								静脈路確保一式、 静脈路確保腕モデル		
123	特定行為（静脈路確保）基本手技：輸液回路作成								静脈路確保一式、 静脈路確保腕モデル		
124	特定行為（静脈路確保）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
125	特定行為（静脈路確保）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
126	特定行為（静脈路確保）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
127	特定行為（静脈路確保）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
128	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）基本手技								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
129	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）基本手技								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
130	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
131	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
132	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
133	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
134	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
135	特定行為（静脈路確保&薬剤投与）隊活動								セーブマン・TEC2603 隊長バック・酸素吸入器 吸引機		
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト・救急資器材マニュアル											
【準備学習・時間外学習】											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】											
OSCE試験（履修規定に準じる）											